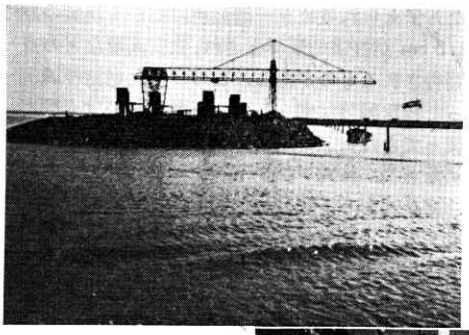
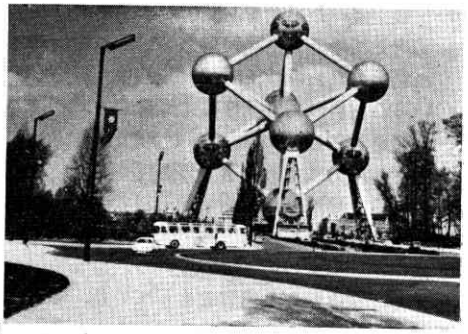
ifatcc　フォト旅行記

永井芳男

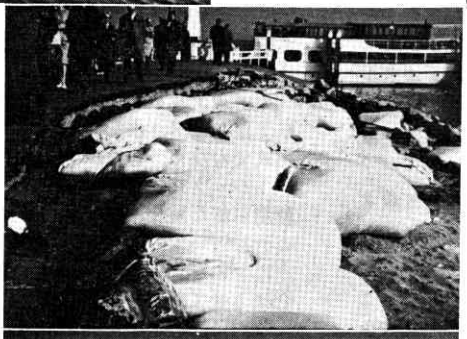
カットのようなマークをもつ通称 IFATCC (International Federation of Associations of Textile Chemists and Colorists, 世界繊維化学者ならびに色素技術者連盟) の第 10 回国際会議が 1962 年 4 月 25 日から 3 日間，オランダのアムステルダム西方の海岸地 Noordwijk aan Zee で開かれた．私は日本学術会議より日本代表として出席したが，その前後約60日間に欧米 12 カ国 28 都市を訪れ，多くの化学者，技術者に会い，工場を見学し，また 2,200 枚の写真をとった．ここでは風物を述べることとするが，原画はカラーで美しい．印刷のため黒白となったのは惜しいものだと思う．



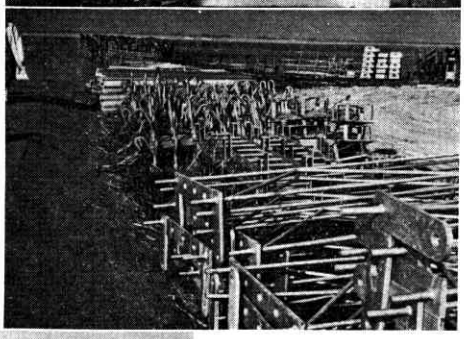
⇦ *4-ダム計画の人工島*
オランダの海のように広い河口に堤防をつり，干拓しようとしている．これは河口のまん中につくられた8万坪くらいの人工島センター．私どもは会議のエクスカーションとして半日がかりでここに来た．この写真は島行のランチから撮ったもの．



ブラッセル郊外のアトミウム　⇧
下の建物から頂上の球まで，エレベータで昇る．頂上の球は見晴し用で，他の球は原子科学を中心とした展示室，球と球をつなぐ管の中にはエスカレータがある．ベルギーはフランスのエッフェル塔のまねはせず，独自の建物をつくったと自慢していた．入場料は 150 円ほどだったと思う．



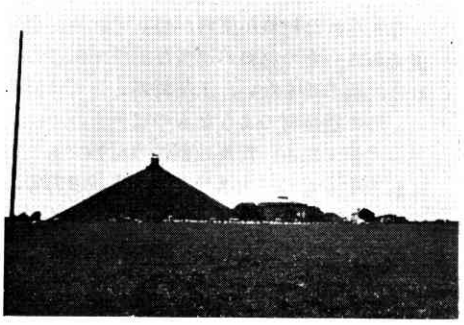
人工島の内部—その 1　⇨
ランチから上陸すると，すぐこのような白い砂利袋が目立つ．水中に沈めるためのもので，袋はナイロン製が一番よく，それを用いているという．

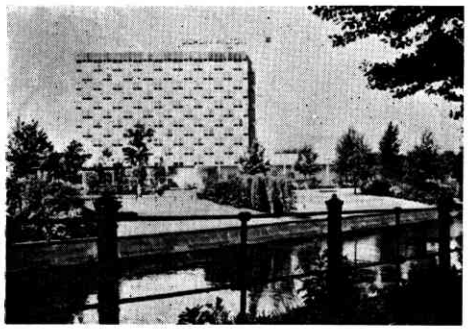


人工島の内部—その 2　⇨
さらに歩いてゆくと，このような金属製の構築用品が山と積まれている．

ワーテルローの記念碑
頂上にいるのはパリをにらんでいるライオンの像，地上に見える白いのは観光客の車．外国ではアトミウムでも，この記念碑，エッフェル塔でも，みな広場があって景観がよく，東京タワーのようにぶざまではない．この町の人々は今でも自発的に醵金して，この町を有名にしてくれた恩人のウェリントン卿家に送金している由．　⇩

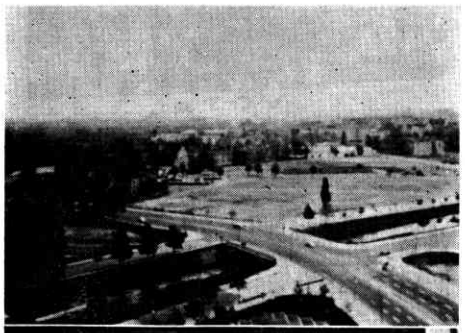
⇦ **人工島の内部—その 3**
島の周囲はやや高く，内部は少し低い．周堤から内部を見たところ．このコンクリート台上に本土からの道が通じる．



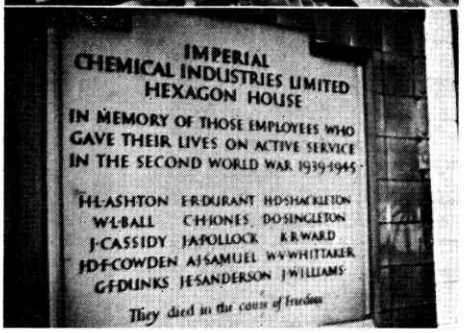


⇧　**西独のホテル**
ベルリン・ヒルトンホテル，一流だがアメリカ資本．豪華なサロンやロビーには，映画にも出てくるようなきらびやかな婦人がたくさん遊弋している．西独産業は多くの成金をうんだそうだが，そういう人々がベルリンに来て豪遊する．

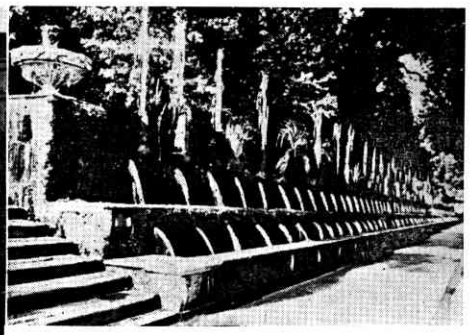
ホテル地区　⇨
ドイツ資本は，この 20 年間産業面に投下し，ホテルなどには力を入れなかった．ヒルトンの部屋の窓より見た閑々たるホテル地区．ホテル・ヒルトンは外国資本だから許されたのだという．わが国とはだいぶ違う．



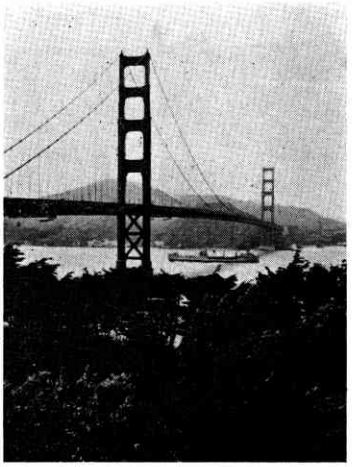
ヘキサゴン研究所　⇨
英国一の大総合化学会社 ICI のヘキサゴン研究所の入口にあるメモリー，これより内は撮影を遠慮してくれと言われた．ここで染料関係の多くの技術者，研究者に会い討論をした．



⇩　**TIVORI—その 1**
ローマの東方，車で約 1 時間の丘の上にチボリがある．噴水の庭園として世界に有名．昔，豪族の持ちものであったという．コペンハーゲンやパリのチボリの名は，これをとったもので，すでに普通名詞となっている．



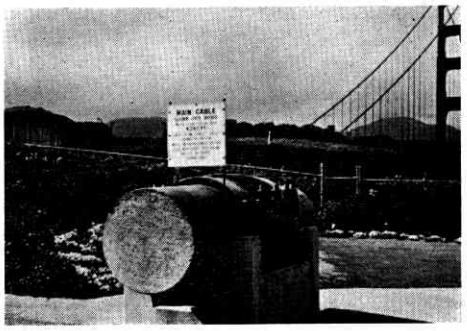
⇧　**TIVORI—その 2**
チボリは噴水の庭園だが，夜はこれにイルミネーションを配して，その美しさはまた格別．チボリを見ていると豪族の金の力と趣味の凝り方が並はずれているように思われてくる．これらの写真は 30 枚の中の二つ．



⇧　**金　門　橋**
壮大な眺めだ．橋の下に船がいるのは，いつもいるわけではなく，構図の都合上遠くから来るこの船を 15 分ほど待って撮ったもの．日本にもこの種の橋がいくつか出来ているのでコンプレックスは感じない．

⇩　**ブランデンブルグ門**
この有名な門はベルリンの東西境界線よりわずかに東側にある．屋上のアポロ像の左の二つと右の一つの黒点は東側の監視兵，双眼鏡と銃をもっている．

メインケーブル　⇨
右手斜めの 2 本のケーブルがメインケーブル，その切り口の標本があったので写した．直径 36½ インチと書いてある．



⇦　**選挙前の宣伝**
ローマには6月初めにいたが，あたかも選挙前で自由党，社会党，共産党の宣伝やポスターが市内にあふれていた．しかし色といい構図といい日本のよりなかなか芸術的であるように思われた．

←　ローマの選挙時—その1
ローマの選挙時—その2　→

⇦　**鉄のカーテン—その1**
オースタリーとハンガリーの国境，まだらのバーの向側がハンガリー，右端が小型バスの運転手，その左が案内説明人，その頭上遠方に見えるやぐらが監視塔．兵士が双眼鏡と銃をもっている．左の連中は同行のアメリカ人アベックとフィリッピンの女性達．

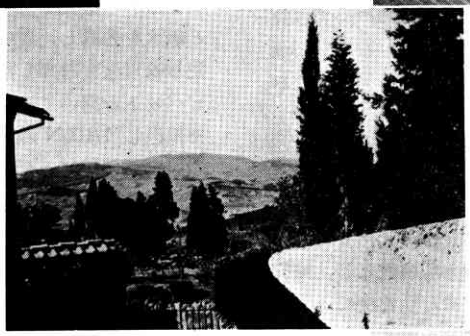
⇩　**鉄のカーテン—その2**
その1の左側の風景．右に見える柵が鉄条網で，その右がハンガリー領．400 m くらいおきに監視塔が立っており，遠方の湖の中までつづいている．観光バスの案内書には true iron curtain と書いてあった．

最後の晩さんの壁画　⇨
有名な最後の晩さんの壁画，この建物の内部はすごく暗かった．オリンパス・ペン S，フジカラーで壁にもたれかかって撮った．F 2.8，∞，B: 30 秒で成功．少し動いているが，まあ勘弁ねがいたい．私が撮ったあと，前方3人のアメリカ婦人が私に露出条件を聞きに来たので教えてあげた．彼女らのもこの程度に写っていることだろう．

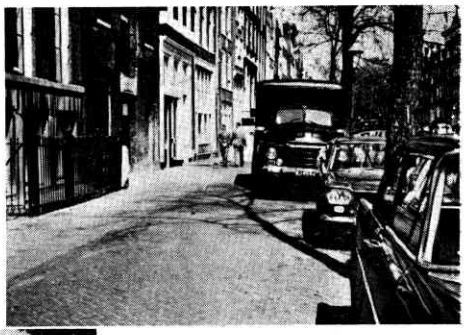
⇩　**ブラッセル市内の桜並木**
4月の末に訪れたが，赤の八重桜が満開．赤に混って白もあり，たいへん美しい．この一帯の丘の上の道路は，みなこの調子で，市民も大切にしている．東京や吉野山の桜があまり大切にされないのは困ったもの．

ゴンドラと漕手　⇨
水は3尺下が見えるくらいにきれいだ，下水道が完備しているのだろう．ベニスではタクシーと言えばゴンドラが来る．1対1で乗ることが多い．たまに雲助漕手にぶつかると4倍くらいの高額をとられる．これがまさに雲助で，途中ゆすられる前に撮ったもの．

⇧　**ハイデルベルヒ**
ハイデルベルヒは，美しい町である．第二工学部の応用化学卒業生関昭二氏がご自慢のメルセデス・ベンツでフランクフルトよりアウトバーンを 110 km/hr で長駆案内してくれた．

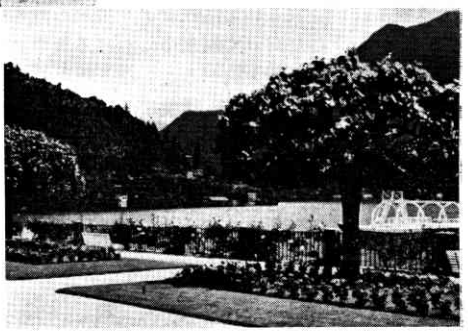


ハイデルベルヒの城よりラインを見る



⇩　**フロレンスの丘**
ゲーテはイタリア旅行で「心やすまる思い」と言ったが，この辺の風物はその言葉にピッタリだった．

⇧　**飾窓の女**
アムステルダムのある街かど，車の右に運河が通っている．私はこの道の向こうから歩いてきた．ちょうど二人の工員が見ている左の窓が女のいるところ．私は東京で「飾窓の女」という映画を見ていたのですぐそれとわかった．私はその前を通ってきたのだが，まともに撮るのはさしひかえた．あたかも二人と出会ったので，彼らの動きを利用することとした．



コモ湖　⇨
ミラノ地方にあるComo湖，高級別荘地，ホテルの庭で陽光を浴びながら傾けるワインの味はまた格別．

⇦　**ムラノ島のガラス屋**
ベニス市街からゴンドラで 20 分ほどのところに Murano という小さい島があり，ガラス細工の店がある．左の人物が主人．商売がうまく，旅行者は思わず高価なものを買わされる．

⇦　**ダンテの墓**
フロレンス市の寺院にあるダンテの墓，ここにはミケランジェロのもある．たいへんに暗い B：30 秒をかけた．左右に女像があるが，それぞれ神と美とを表わしているのだそうだ．

⇩　**ポンペイ史跡**
ポンペイの廃墟は美しいが空しさを感じる．富士山麓の東京新都建設には，このことを考えてほしいと思った．観光客は大勢いるが，中央の女性のように大胆な曲線を表わして歩いているのはあまり見当たらず，みなが微笑していた．

(1963 年 2 月 4 日受理)